

国立波方海上技術短期大学校 学生・教員を対象とした勉強会を開催

日本船主協会では2008年7月より人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

この度、2017年11月1日(水)に国立波方海上技術短期大学校(愛媛県)で内航海運に関する勉強会を開催しました。これは、船員教育機関の教員や学生に海運業界の現状や実務に関する理解を深めてもらうとともに、教員の方々にはそれを指導に活かしてもらうことを目的としています。

この勉強会は、人材確保TFで内航分野の案件に対応する「内航ワーキンググループ(WG)」のメンバーが中心となり開催しており、今回で7回目となりました(学生を対象とした勉強会の開催は今回で3回目)。内航業界に多くの新人船員を輩出している海技教育機構の学校(小樽・館山・唐津・口之津の海上技術学校、宮古・清水・波方の海上技術短期大学校、ならびに海技大学校)の教員や学生を対象に、内航海運の現状や運航および荷役の実務等について講演を行い、学生指導や学習に資することを主な狙いとしています。

今年度は、内航WGの尾形座長(NSユナイテッド内航海運)、WGメンバー会社より桐山氏、畠山氏、瀬下氏(上野トランステック)、真治氏(栗林商船)、吉田氏(三洋海運)、栗林氏、黒住氏(日本マリン)が学校を訪問しました。船社の各講師からは、学生を対象に、内航海運の現状のほか、石灰石船、タンカー、RORO船など各社の運航している船や貨物についての説明を行いました。教員対象の勉強会では、内航海運業界の概要についての説明に加え、内航船員の現状について等の踏み込んだ意見交換が行われ、それぞれの勉強会ともに有意義なものとなりました。

人材確保タスクフォースでは、今後もこのような関連機関と協力して幅広い活動を継続していくこととしています。



学生対象勉強会の様子



前列左より、黒住氏、桐山氏、尾形氏(講師)



説明後、質問をする学生



教員対象勉強会の様子